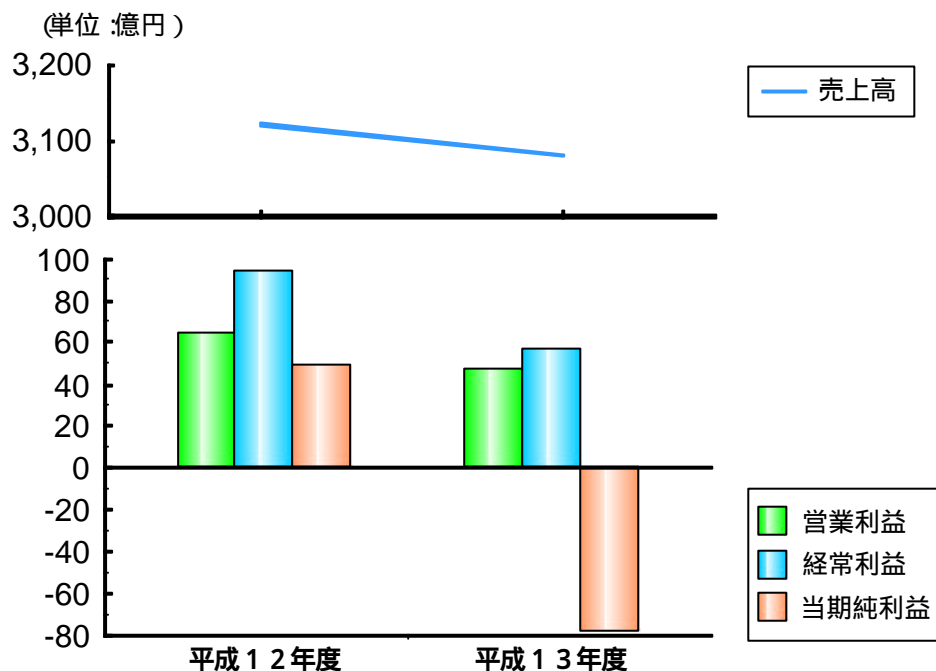


# 平成14年3月期決算説明会 決算概要

平成14年5月13日  
日本ユニシス株式会社  
常務取締役 白鳥 恵治

# 連結決算ハイライト



- ✓ 売上高は、景気低迷による投資抑制により 特にハードウェア、ソフトウェア売上が想定以下だが、サービス売上は順調に増加。
- ✓ 利益面は、利益率の低下があったが、大幅なコスト削減を実行し、営業 / 経常利益は中間決算時点での見通しをほぼクリア。当期純損失は特別退職による特別損失の積み増しから見通しより悪化。

中間決算発表時業績見通し

売上高	315,000 (百万円)
営業利益	4,800
経常利益	5,500
当期純損失	4,500

(百万円)	平成12年度 (H13.3)	平成13年度 (H14.3)	増減	
売上高	312,203	307,898	4,305	( 1.4%)
営業利益	6,393	4,686	1,706	( 26.7%)
経常利益	9,430	5,692	3,737	( 39.6%)
当期純利益	4,876	7,831	12,708	

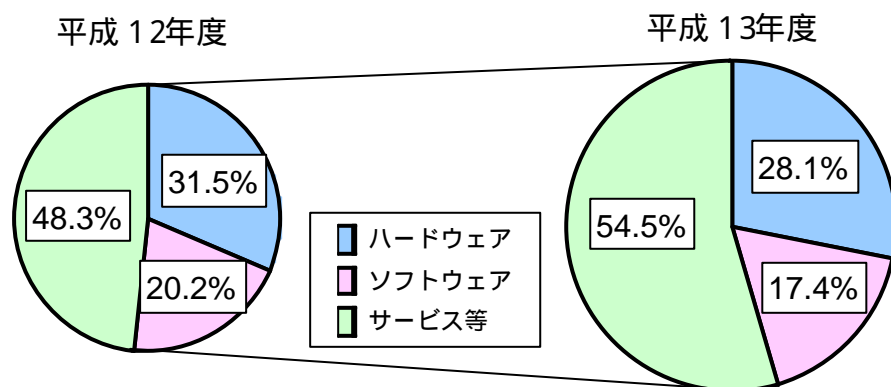
連結対象子会社 14社 15社 (新規連結 株式会社エイタス)

# 売上高の状況

## 売上高 (連結)

	前期比	売上区分別の動向
ハードウェア (866億円)	11.9%	ハードウェア販売は投資抑制や競争激化の影響により計画未達。ハードウェア賃貸収入については引き続き減少傾向にあるが、ほぼ計画線。
ソフトウェア (534億円)	15.3%	昨年度増加の反動減があったほか、オープン系ソフトウェアの大口案件が想定以下。
サービス等 (1,679億円)	+11.3%	堅調なシステム再構築需要によりシステムサービス売上が15%増、アウトソーシングビジネスの立ち上がりにより、同売上が2.6倍となるなど好調に推移した。

## 売上高構成比



サービス売上の比率が初めて50%を超える  
(Non H/W 売上は 71.9%)

## 受注 (連結)

	前期比
受注高	2,993億円 8.1%
受注残高	1,690億円 +25.7%

受注残高は、1年以内売上計上予定の残高

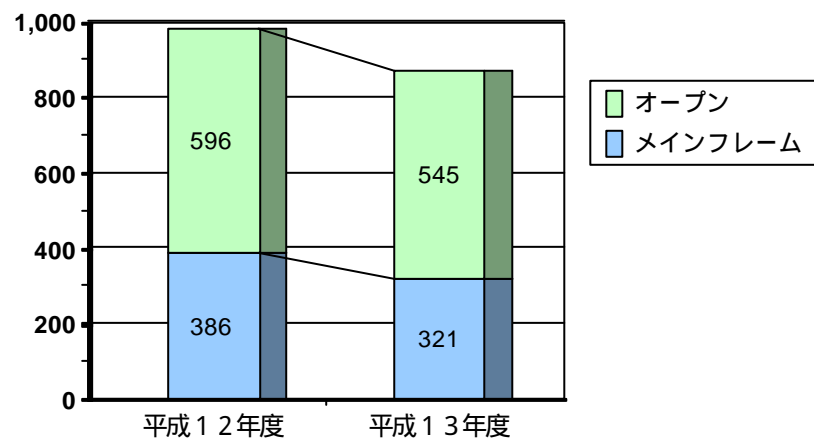
# マーケット/プロダクト別動向

## マーケット別売上高 (連結)

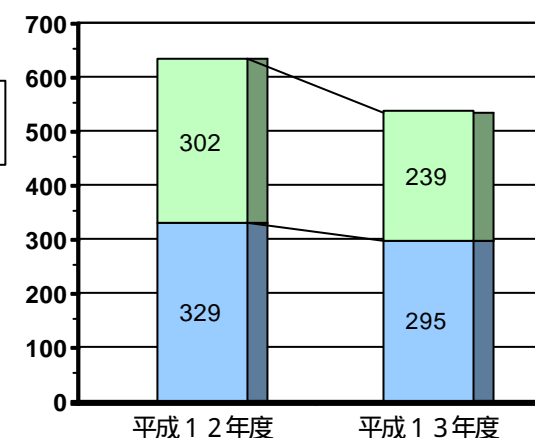
	前期比	動向
金融機関 (918億円)	3.0%	農中金新証券システムや信金の統合需要などが堅調であったが、地銀向けが投資抑制により停滞。
官公庁 (336億円)	6.9%	更新需要は比較的安定しているが、新規案件は競争激しい。
製造工業 (577億円)	3.5%	自動車向けは堅調維持だが、投資抑制の動きが広がる。
商業・流通 (329億円)	0.6%	全般としては景気低迷の影響あるが、新規ユーザの獲得は増加。
電力・サービス (825億円)	+5.9%	電力、航空・旅行は計画線。子会社エイタスの新規連結効果やユニアデックスの通信キャリア向けネットワークが伸びる。

## プロダクト別売上高 (連結)

(単位: 億円)      ハードウェア



(単位: 億円)      ソフトウェア



# 売上総利益率 / 販売費及び一般管理費等

## 売上総利益率

区分 (売上総利益)	利益率	前期比	利益率の動向
ハードウェア (248億円)	28.6%	1.5%	コンピュータ販売の利益率が3.0ポイント低下。コンピュータ賃貸収入の利益率は上がったが、ハードウェア全体では低下。
ソフトウェア (197億円)	36.9%	0.2%	売上減で売上総利益額は減少したが、利益率の低下は原価低減に努めたことで軽微であった。
サービス等 (366億円)	21.8%	3.0%	システムサービスの利益率が、一部低採算の案件が発生したことにより想定以下に留まった。
合計 (811億円)	26.3%	2.6%	

## 販売費及び一般管理費

839億円 764億円  
 前期比 75億円 ( 8.9% )

Project-R  
 の推進

主な増減	前期比
人件費 (販管費計上分のみ)	5億円
研究開発費	36億円
営業支援費	12億円
事務機械化費	12億円
広告宣伝費	6億円 など

営業外損益(Net) + 30億円 (前期) + 10億円 (当期) (有価証券売却益 27億円 8億円など)

特別損益 (Net) + 1億円 (前期) 184億円 (当期) (特別退職支援金 165億円 (657名)、子会社事業構造改善費 14億円などの特別損失)

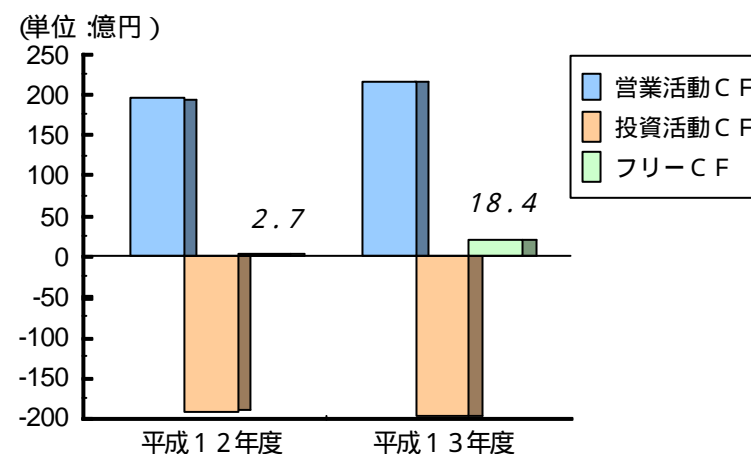
# 財政状態 / キャッシュフロー

## バランスシート

	前期末比	主な要因
総資産 (2,576億円)	+ 33億円	
受取手形及び売掛金	154億円	・売掛金回収促進
たな卸資産	+ 42億円	・開発仕掛品やアウトソーシング用機器手配により増加
ソフトウェア	+ 49億円	・パッケージS/W改造等による開発外注費増加
負債 (1,711億円)	+ 107億円	
支払手形及び買掛金	129億円	・ハードウェア購入額の減少等
未払金	+ 180億円	・特別退職支援金 165億円等
有利子負債	1億円	・借入金は若干増だが全体では微減 (期末残高 631億円)
		(長短借入金、社債、買掛金の一部及びその他に含まれる長期未払金等)
株主資本 (851億円)	74億円	・損失計上による連結剰余金の減少および
株主資本比率	36.4% 33.0%	「その他有価証券評価差額金」13億円の計上

## キャッシュフローの状況

(百万円)	平成12年度	平成13年度
営業活動によるCF	19,452	21,591
投資活動によるCF	19,178	19,747
財務活動によるCF	1,632	+ 3,085
現金及び現金同等物残高	34,874	39,853



# 平成14年度業績予想

(百万円)	平成13年度 (H14.3)	平成14年度 (H15.3)	増減	
売上高	307,898	327,000	+ 19,102	(+ 6.2%)
営業利益	4,686	11,500	+ 6,814	(+ 145.4%)
経常利益	5,692	11,200	+ 5,508	(+ 96.8%)
当期純利益	7,831	5,800	+ 13,631	( - )
連結対象子会社 15社 16社 (新規連結 株式会社トレードビジョン)				
受注高	299,284	325,000	+ 25,716	(+ 8.6%)
フリーキャッシュフロー	1,844	9,500	11,344	

- 売上高は、アウトソーシングを中心としたサービス売上の伸長や子会社独自売上の増加もあり6.2%増収の見込み。
- 利益面は、特別退職による経費削減効果やコスト構造改善策の継続によって、営業利益は大幅増益予想。特別退職等の特別損失が消滅し純利益は黒字転換へ。
- フリーキャッシュフローは、特別退職支援金支払い(5月)もあり、ネガティブの予想。

中間期業績予想数値については、補足資料をご参照ください。

# 売上高 / 利益率見込み

## 売上高

(百万円)	平成 13年度 (H14 . 3)	平成 14年度 (H1 5 . 3)	増減
<b>サービス</b>	<b>167,895</b>	<b>183,400</b>	<b>(+ 9.2%)</b>
(内訳) システムサービス	85,446	89,500	(+ 4.7%)
サポートサービス	53,819	55,500	(+ 3.1%)
アウトソーシング	11,666	24,000	(+ 105.7%)
その他サービス	16,964	14,400	( 15.1%)
<b>ソフトウェア</b>	<b>53,428</b>	<b>55,200</b>	<b>(+ 3.3%)</b>
<b>ハードウェア</b>	<b>86,574</b>	<b>88,400</b>	<b>(+ 2.1%)</b>
<b>売上高合計</b>	<b>307,898</b>	<b>327,000</b>	<b>(+ 6.2%)</b>

## 売上高総利益率

	平成 13年度 (H14 . 3)	平成 14年度 (H1 5 . 3)	増減
<b>サービス</b>	<b>21.8%</b>	<b>23.8%</b>	<b>(+ 2.0%)</b>
<b>ソフトウェア</b>	<b>36.9%</b>	<b>37.9%</b>	<b>(+ 1.0%)</b>
<b>ハードウェア</b>	<b>28.6%</b>	<b>24.3%</b>	<b>( 4.3%)</b>
<b>合 計</b>	<b>26.3%</b>	<b>26.3%</b>	<b>(+ 0.0%)</b>



# コスト構造改善策の継続

抜本的コスト構造改善策「Project-R」を推進し、引き続き**コスト競争力強化**を図る

## 主な内容

	(前期比)
- 前期特別退職制度実施をはじめとする総人件費削減 (退職者の人件費減の一方で外注費の増加も見込んだNet削減額(47億円) + その他の人件費削減の実施)	58億円
- システム販売支援、その他の外注コスト低減など などの一方、将来に向けた積極投資として、	12億円
- ソフトウェア開発費	25億円
- 開発用機器等への投資 を増額する。	8億円
差し引きで、売上原価(25億円)の低減、販管費(11億円)の圧縮	



この結果、H13~H14年度にわたる2年間のコスト削減は、  
合計147億円(原価61億円、販管費86億円)になる見込み

なお、上記のほか、年金関連コスト削減のため厚生年金代行部分の返上についても検討中

# 単体決算の状況

## 平成13年度実績

(百万円)	平成12年度 (H1 3.3)	平成13年度 (H1 4.3)	増減	
売上高	284,892	273,384	11,508	( 4.0% )
営業利益	2,338	2,568	+ 229	(+ 9.8% )
経常利益	5,786	6,116	+ 330	(+ 5.7% )
当期純利益	3,054	4,376	7,430	( - )

- 売上はハード、ソフトの減少をサービスの好調で補いきれず。
- 営業利益はコスト削減により増益となったが、当期純利益は特別退職実施により赤字計上。

## 平成14年度予想

(百万円)	平成13年度 (H1 4.3)	平成14年度 (H1 5.3)	増減	
売上高	273,384	285,000	+ 11,616	(+ 4.2% )
営業利益	2,568	8,500	+ 5,932	(+ 231.0% )
経常利益	6,116	8,700	+ 2,584	(+ 42.2% )
当期純利益	4,376	4,700	+ 9,076	( - )

- アウトソーシングを中心としたサービスの伸びにより売上は回復。
- 特別退職の経費削減効果等によって営業利益は大幅増益。純利益は黒字転換。

# UNISYS

[www.unisys.co.jp](http://www.unisys.co.jp)

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は、本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。